

子宮頸がん：

子宮頸がんは、発がん性ヒトパピローマウイルス（HPV）の感染によって起こる病気で、幅広い年代の女性に見られます。日本では年間約8,500人が発症し、約2,500人が死亡しているがんであり、女性特有のがんの中では第2位となっています。特に最近では20～30代の女性に急増しています。

HPVの子宮頸部への感染はほとんどが性交渉によるものです。HPVの感染は非常に一般的ですが、子宮頸がんの発症に至るのはごくまれです。しかし、HPVに感染した後どのようなタイプの人が発症しやすいかということはわかっていないため、子宮頸がんを発症する可能性は誰にでもあることになります。

ワクチン接種で、発がん性 HPV から長期にわたって体を守ることが可能であると考えられていますが、ワクチンの接種で全ての発がん性 HPV の感染を予防できるわけではありません。また、すでに感染したウイルスを排除したり、子宮頸がんの進行を抑制する働きはありません。

※ワクチンの副反応：注射部位の疼痛、発赤及び腫脹などの局所反応と、軽度の発熱、倦怠感などの全身の反応であり、いずれも一過性で数日以内に軽快します。